



串間市立福島小学校 重点支援校訪問の紹介

訪問日 令和2年6月17日(水) 午後9時15分から午後4時30分
訪問者 中部教育事務所(指導主事等4名) 串間市教育委員会(指導主事等2名)

今回紹介するのは、串間市立福島小学校です。児童数が480名程の串間市内で最も大きな小学校です。30名をこえる職員の皆さんは仲がよく、「**チームとして動くこと**」ができる点が津曲文男校長先生の自慢です。当日は、地域の方々や通学路で見守りをする学級担任以外の先生方と、笑顔で元気のよい挨拶を交わしながら下校をしていく児童の姿が見られました。校長先生から教えていただいた「『私がやります』と率先して動く職員ばかりなんです。」という説明ときっちり重なり、とても清々しい気持ちになりました。連続して重点支援校の指定を受けている福島小学校の3つの「いいね」を紹介します。

いいね1 相互に参観ができる環境づくり

職員間で自由に授業を見合う環境ができています。授業を見られることに抵抗がないとは言える方は少ないかもしれません。その解消に向けて福島小学校では、校長先生・教頭先生が「**よい実践を共有するため**」「**うまくいかないことを共有し改善するため**」「**特別支援教育が必要な児童を早期発見するため**」の3つの目的を先生方に理解してもらった上で、随時授業を参観しています。当日は、1年から6年、特別支援学級で7名の先生方が授業をされました。同じ学年の先生方は熱心に授業を参観した上で、午後の「学年部別研究会」で自分の考えを述べられていました。さらに「串間市教育委員会ならではの」取組として、「**授業参観バリアフリー化**」があります。当日は、市内の小・中・高等学校から多くの先生方が授業を参観されており、小・中・高一貫教育の意識の高さを垣間見ることができました。



通級指導教室では、小・中・高の通級指導担当者が参観されていました。



いいね2 児童の学習規律・態度の改善

4月の後半に学校が再開され、1か月が経過しない中で重点支援校訪問でした。令和元年度と比較すると、特に「**集中して話を聞く態度**」や「**友達と話し合う態度**」が大きく改善されており、学習に臨む態度は「真剣そのもの」でした。低学年の学級は、45分間、集中力を途切れさせることなく、先生や友達の話をよく聞いて学習が進められていました。中学年の学級は、自分で「分かった」「分からない」「考えている」の意思表示をしながら、分かるようになるために、自分の考えをまとめることに努めていました。高学年の学級は、自分の考えを明確にした上で、友達にわかりやすく伝えられるように試行錯誤する姿が見られました。9月の訪問でも、この態度が継続されていることを期待したいと思います。



先生も児童も「真剣勝負」です。



いいね3 OJTの充実 メンター・サブメンター制度

7名の授業者に対して20分間のフィードバックが終わった後、90分間の学年別協議会が行われました。各協議会は**メンターとサブメンターを中心に計画**され、授業者と参観者が1単位時間の中で「何を学んだか」「どのように学んだか」「何ができるようになったか」についてワークショップ形式で整理されました。**児童の姿をもとに、「成果」については何が「要因」と考えられるか、「課題」についてはどのように「対応」することが必要かについて**協議を深めました。各協議会では改善のための取組について指導主事に助言を求める場面もありましたが、学年別で考えた「対応策」を共有した上で、第2回の授業に生かしていくことになりました。主な「対応策」として、身につけたい力を「まとめ」に位置付けた上で、逆さ向きに学習指導過程を作ることや、協働的な学習に挑戦することなどが出されていました。あつという間の90分間でした。



気づきや考えたことが、KJ法でまとめられていきました。



7月3日には、共有された対応策を意識して授業改善に取り組むために、**串間市教育委員会による「つなぎの訪問」**も行われています。次号以降も、各地区の取組を紹介していく予定ですので、組織的な取組の参考にいただければ幸いです。